

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070300621
法人名	有限会社 ほうらい
事業所名	グループホーム ほうらい小芝
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区小芝一丁目6番10号 (電話) 093-871-8200

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月25日	評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】(平成21年8月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	17 人	常勤	14人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2~3階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費)14,100円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	630 円	おやつ	120 円
	または1日当たり 1,650円			

(4) 利用者の概要(8月5日現在)

利用者人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共愛会共立病院 / 戸畑けんわ病院 / 大手町健和病院 / 長谷川歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ほうらい小芝」は戸畑区の街なかに位置し、利便性が高い閑静な住宅地に立地している。1階は別法人のデイサービス事業所が運営しており、2~3階がグループホームとなっている。デイサービス事業所とは、合同のイベント開催などを行い交流が行なわれており、また多様な地域ボランティア(老人会・子ども会等)の訪問を受け、交流の機会となっている。法人として多様な福祉事業を展開しており、そのケアの実績をグループホーム運営につなげ、入居者の自立を支援し、豊かな潤いのある暮らしの実現に努めている。特に食事と睡眠(快食・快眠)に力を入れて取り組んでおり、旬の食材にこだわり、季節感を感じられる献立づくりがなされている。管理者・職員は、ホームの理念である「ゆっくり、のびのび、楽しく!!!」を基本に、入居者のあるがままの暮らしを支え、これまでの暮らしが継続できるように日々取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、地域密着型サービスとしての理念の検討が求められていた。地域に根ざした交流を育てており、今後も引き続き、理念の検討が求められる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前年度の評価結果を受け、健康管理に力を入れている。消防署の救急の講座を受け、緊急時の対応のノウハウを学ぶなど、ケアやサービスの質の向上を目指して取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回開催している。毎回、ヒヤリハットを含む多様なテーマにより、ホームの現状を報告している。ヒヤリハットの報告は、日々のケアやサービス提供の中で職員の緊張感ある対応を促すために報告するようにしている。家族の意見や意向を把握するために年1回、家族会を開催しているが、今後は更に運営推進会議への家族参加を積極的に働きかけていくことが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	年1回、家族会を開催している。家族との情報交換の機会となっているが、運営推進会議への家族参加を働きかけ、更に家族の意見や意向を吸い上げる機会として活かしていくことが期待される。苦情相談窓口を設置し、8月には家族の意見を反映して近隣の駐車場と契約し、家族が面会のために利用できるように改善している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園・小学校との交流やボランティア(子ども会のダンス・琴の演奏・老人会の踊り等)の来訪があり、積極的にふれあい・交流活動を行っている。記録として「地域交流活動記録」がある。ホームの内外を含め、「ふれあう」ことを基本にレクリエーションに力を入れ、地域との連携を積極的に図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「ゆっくり、のびのび、楽しく!!!」を理念として掲げ、入居者とふれあうことを基本に理念の実現を図っている。地域密着型サービスとして地域との関係性を示す理念の内容が求められ、現在、行っている地域との交流・ふれあい活動を理念の中で位置づけることが求められる。		現在、地域との連携は積極的に取り組み、地域との関係を構築している。理念として地域密着型サービスとしての役割をどのように果たしていくのか、昨年に引き続き、理念の検討が求められる。
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	ふれあうことを基本とし、入居者のペースにあわせた暮らし、入居者の希望・要望にそった暮らし、生き生きと楽しい暮らしに向けて、管理者・職員とともに取り組んでいる。理念を共用空間に大きく掲示している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	保育園・小学校との交流やボランティア(子ども会のダンス・琴の演奏・老人会の踊り等)の来訪があり、積極的にふれあい・交流活動を行っている。記録として「地域交流活動記録」がある。ホームの内外を含め、「ふれあう」ことを基本にレクレーションに力を入れ、地域との連携を積極的に図っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価の結果は、家族会に報告するなど関係者への周知を図り、改善内容に関しては、月1回のミーティングやカンファレンスの際に検討している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回開催している。毎回、ヒヤリハットを含む多様なテーマにより、ホームの現状を報告している。ヒヤリハットの報告は、日々のケアやサービス提供の中で職員の緊張感ある対応を促すために報告するようにしている。家族の意見や意向を把握するために年1回、家族会を開催しているが、今後は更に運営推進会議への家族参加を積極的に働きかけていくことが期待される。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム ほうらい小芝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市が派遣する介護相談員を月2回受け入れている。市の担当窓口とは相談できる関係を築いている。地域活動記録からもボランティアの受け入れ等、意見交換や助言を得ていることが確認できる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、成年後見制度の活用に向けての支援しており、管理者を中心としてミーティングにて話し合いを行い、また研修参加等により制度の理解と周知・活用に努めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、「ほうらい小芝だより」を発行し、入居者の行事参加状況や外出などを写真付きで掲載し、日々の過ごし方がわかるように報告している。また面会時には家族とのコミュニケーションを図り、入居者の暮らしぶりや健康状態などを報告している。年1回開催の家族会では、評価結果の報告や行事報告、利用料金などホームの現状を報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	年1回、家族会を開催している。家族との情報交換の機会となっているが、運営推進会議への家族参加を働きかけ、更に家族の意見や意向を吸い上げる機会として活かしていくことが期待される。苦情相談窓口を設置し、8月には家族の意見を反映して近隣の駐車場と契約し、家族が面会のために利用できるように改善している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の異動は殆ど行われていない。やむを得ず離職等が発生した場合には、入居者へ説明し、引き継ぎ期間を十分に設けるなど配慮し、入居者の混乱とならないよう努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたっては、性別や年齢、資格等を理由として排除することはない。高齢者への配慮や福祉の仕事の理解等を重視している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム ほうらい小芝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者や障がい者の権利擁護について、人権教育の実施や研修参加への取り組みがあり、伝達研修も行なわれている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	年間の外部の研修情報を収集し、職員の希望する研修を受講できるように支援している。受講料のサポートや勤務ローテーションの調整などにより、積極的にバックアップしている。月1回のミーティングで報告し、伝達している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同法人の有料老人ホームや、区内のグループホームとの情報交換や意見交換等の交流が行われている。今後のネットワークづくりや勉強会開催等の取り組みにも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族との話し合いを充分に行い、また見学してもらいながら段階的な利用を重ね、馴染みの関係・環境づくりに努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	これまでの家庭での過ごし方をそのままに、掃除・食事・洗濯物たたみなど、できることは入居者が積極的に行い、これまでの暮らしが継続できるように職員がサポートしている。職員とともに行なうことで、支えあう関係づくりが行われている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム ほうらい小芝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人や家族から情報を集め、意向を把握しながらアセスメントに反映している。今後は、生活歴や職歴なども再アセスメントするなど、更なる情報収集を期待したい。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人や家族の意向を中心として、チームケアを実践しており、入居者の生きがいある暮らしの実現や疾病予防などを視野に入れた介護計画を作成している。看護記録・申し送り・状態観察などがわかりやすく記録されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月ごとに評価を行い、介護計画の見直しを行っている。状況の変化に応じて、家族・職員・医療関係者との話し合いを行い計画に反映し、見直しを行なっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	法人として多角的に福祉事業を運営しており、マイクロバスやテントなどを借りることができ、遠出のドライブや行事・レクリエーションなどに役立っている。また情報交換を活発に行い、企業のスケールメリットを活かした展開を行っている。家族会を通じて、地域住民の介護相談や施設の紹介などを行なっている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。家族の要望に応じて、通院同行介助・リハビリ支援など、適切な医療が受けられるように取り組んでいる。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム ほうらい小芝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「重度化した場合における対応に係る指針」「同意書」があり、医療連携体制により対応していきたいと考えている。入居者・家族と話し合いながら検討し、準備を行っている段階である。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	大きな声や問題がある言動などは、その場で職員に注意し、入居者のプライバシーを尊重した対応を行うように指導している。記録などの個人情報は、事務所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の暮らしのペースを尊重し、自己決定によりその日の暮らしを支援している。「ゆっくり、のびのび、楽しく!!!」という理念にそって、個々の生活リズムにあわせた過ごし方ができるように支援している。一人ひとりの希望や意向の把握に努め、食事・入浴・外出等に柔軟な対応がなされている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事のメニューは定期的に嗜好調査を行い、旬の食材も取り入れながら、食事が楽しみとなるように取り組んでいる。使い慣れた食器を使用し、職員とともに食卓を囲んでいる。おやつ作りや餃子作りなど、職員と入居者が楽しみながら料理ができるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週2～3回を目安に入浴している。希望があれば、入浴時間や回数に柔軟な対応に努めている。拒否する方にも、無理強いとしないよう、声かけのタイミング等を工夫している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム ほうらい小芝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日々の暮らしの中で、食事の準備や後片付け等の家事を、強制ではなく自然な役割づくりとなるよう支援している。得意分野を活かした達成感を得ることができるように、役割りが楽しみに繋がるよう、場面づくりの工夫が行なわれている。今後は、広く日当たりの良いベランダを活かし、プランターによる菜園づくりなどの展開にも期待したい。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	散歩や買い物など、入居者の状況や天候によって外出を楽しめるように支援している。季節感を感じられるように花見などのドライブも取り入れている。ホーム近郊に自宅がある場合には、自宅への外出も支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は鍵をかけないケアを実践している。鍵をかけることの弊害を理解し、安全面に最大の配慮を行いながら、入居者の自由な暮らしを支えるよう努めている。ドアには鈴をつけ工夫している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署との連携により年2回の避難訓練を実施している。避難ロープの点検を行うなど、火災に対する意識を高めている。地域の協力・参加については、運営推進会議・民生委員を通じて働きかけている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	母体である老人保健施設の栄養士との連携により、栄養バランスや嗜好に配慮された献立が作成されている。旬の食材を取り入れ、視覚を楽しむ工夫も見られ、個別の状況にも柔軟に対応している。今後は水分摂取量のチェックが望まれる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム ほうらい小芝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	建物の外観から想像するよりも共用空間は広くゆったりとしている。リビングにはソファが、テラスにはベンチが配置されており、くつろげる空間が確保されている。キッチン是对面式でテーブル台が置かれ、後片付けや洗い物などの手伝いができるように工夫している。壁には手作りの作品が飾られ、家庭的でゆったりとくつろげる温かい雰囲気となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者のこれまでの暮らしの品々が持ち込まれ、本人の住まいとして独自の工夫がある。なじみのある住まいを実現し、仏壇・テレビの他、家族の写真などが飾られており、その人らしい居心地の良い空間づくりを支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			